

2018 年度

短期海外研修報告書

@シンガポール経営大学&マレーシア工科大学



Table of Contents

P03	Preface
P04	Course Information
P06	Program Calendar
P10	UTM/SMU
P15	Malaysia Diary
P28	Singapore Diary
P37	Concluding Words



HITOTSUBASHI UNIVERSITY

Preface

短期海外研修（シンガポール経営大学・マレーシア工科大学）に寄せて

経営管理研究科講師 秋庭 裕子
社会学研究科講師 田口 陽子

春休み3週間の短期海外研修（シンガポール経営大学・マレーシア工科大学）が始まってから、2年目を迎えました。昨年度実施した第1回目の研修では、18名の学生が集まり、学生たちの事後評価でも大変充実した内容の研修であることが分かりました。これらの学生からの意見と担当者としての反省を踏まえて、2年目には、新たに2名の教員体制で本研修を実施することになりました。今年度は、後半のシンガポールでの研修期間を延ばし、新たな内容を組みました。具体的には、学生によるフィールドワークを実施し、週末をはさんで自由時間を充実させました。新体制で始まった2年目の研修には、15名（1年生2名、2年生10名、4年生3名）の学生が参加しました。

本報告書から分かるように、1日目にシンガポールのチャンギ空港に到着後、研修参加学生のビザが下りなかったというトラブルがありました。幸いにも、当日中に無事ビザが下り、夜に1人でマレーシア工科大学のあるジョホールに到着し、現地のマレーシア学生バディの出迎えのもと、無事、研修に参加している学生に合流することができました。このようなスタートでしたが、その後も、大きな病気やケガもなく3週間の研修が無事終わったことにほっとしています。

本研修の特徴は、現地の学生とさまざまな交流を行いながら、多文化社会を肌で感じる、という点です。マレーシア工科大学の学生は、昨年度同様、早朝にマレーシアを出発し、シンガポールのチャンギ空港まで学生たちをバスで迎えに来てくれました。そこから2週間、バディとして授業や課外活動だけではなく、ナイトマーケットに行ったり、プライベートをともにすることで、研修参加学生にマレーシア人大学生の日々の生活を感じさせてくれました。シンガポールでは、バディという形ではありませんでしたが、一橋大学に交換留学予定のシンガポール経営大学の大学生、日本文化クラブの大学生、初級日本語クラスの大学生らをはじめ、日本に関心のある学生たちと交流の機会を持ち、同世代の学生がどのような生活や考えをしているのかを感じることができました。

本報告書が、研修に参加した学生たちの振り返りとなるだけでなく、海外留学に関心がある学生たちが手に取り、今後、本研修等への参加につながると嬉しく思います。

本研修の実施に協力くださったマレーシア工科大学とシンガポール経営大学の関係者の皆様、国家開発庁のTan様ら関係者の皆様、シャングリラホテルの出倉様ら関係者の皆様、CIEEの皆様、如水会シンガポール支部の皆様、本学の関係者の皆様に、心より御礼を申し上げます。

最後に、本研修に参加した学生の皆さんが、マレーシアとシンガポールで培った行動力を生かして活躍されることを研修担当者として祈っています。

Course Information

Schedule 【曜日時限】

冬学期 水曜 4 限

Instructors 【教員】

秋庭 裕子 田口 陽子

Course Outline【授業概要】& Attainment Target【授業科目の到達目標】

冬学期中の事前オリエンテーションを経て、休業期間中に3週間(2月中旬～3月上旬)、シンガポールとマレーシアにおいて2種類のフィールド・ワーク型プログラムに参加し、グローバル社会におけるコミュニケーション能力を習得し、海外で実力を発揮できる自信を育む。第1・2週は、マレーシアにおいて、マレーシアまたは周辺地域の企業訪問と講義を通じて、アジアでのグローバル・ビジネスについて考察する。第3週はシンガポールに移動し、シンガポールまたは周辺地域の企業にて企業体験やグローバルビジネス視察(使用言語:日本語・英語)を行い、現地学生とのプロジェクトや発表を通じて、学びを深める。シンガポールでは、シンガポール経営大学が募集した学生たちの協力のもと研修を実施し、また、現地の如水会支部とも交流を深める予定である。目安として TOEFL530(PBT)、71(iBT)以上を有することが望ましい。

Grading Criteria【成績評価の方法】

オリエンテーションプログラムへの参加とクラス運営(役割)への貢献度(30%)、派遣先でのパフォーマンス評定(30%)、体験記の完成(40%)により総合評価する。

A+:96-100

A:90-95

B:80-89

C:70-79

D:60-69

Schedule 【授業計画】

2018/

9/19 研修概要説明会 Course Orientation

9/26 研修概要説明会(第2回)

10/12 参加希望申し込み 提出期限(提出先:学務部第5係)場合によっては延長の可能性あり

10/13以降 参加予定者への連絡(担当教員よりメールにて)必要に応じて面接あり

11/7 渡航前オリエンテーション1 キックオフ、概要説明、旅行手続き

11/14 渡航前オリエンテーション2 マレーシア(ジョホール)、シンガポールの文化

11/21 渡航前オリエンテーション3 ゲストスピーカー(シンガポール大使館)

11/28 渡航前オリエンテーション4 現地でのプロジェクト準備 I + 異文化コミュニケーション

12/5 渡航前オリエンテーション5 異文化コミュニケーション

12/12 渡航前オリエンテーション6 現地でのプロジェクト準備 II

12/19 全学危機管理オリエンテーション(19:00~20:30) 東2号館2201教室

2019/

1/9 渡航前オリエンテーション7 最終確認打ち合わせ

※1月19日の最終オリエンテーションから、渡航前(2/12)までに直前オリエンテーションを実施する可能性あり。

2/12~3/7 短期海外研修期間(3週間) 予定日本発着日含む

3月 プログラムの振り返り会(日程要調整)

4月下旬 学内留学フェアでのプロモーション

3月~7月 体験記(スケジュールは別紙参照)

Program Calendar

Schedule (tentative) of the program, spring 2019

Date	Schedule
12/2/2019, Tue	Departure from Japan (Haneda) at 10:50pm (SQ635)
13/2/2019, Wed	<p>Arrival in Singapore at 5:25am</p> <p>6am: Group Airport Pick Up, Changi Airport/ Senai Airport, buddies holding a Sign: SS14</p> <p>9am: Arrival to UTM Skudai campus and check in to Scholars Inn</p> <p>10am -2pm : Checked-in, Free & Easy Lunch in Scholars Inn</p> <p>2pm : Course briefing and ice breaking (UTM New Library)</p> <p>3pm : Campus tour - UTM Sustainable campus</p> <p>5pm: Back to UTM Scholar Inn/Free & Easy</p>
14/2/2019, Thu	<p>8:30am: Departure from UTM Scholars Inn</p> <p>9am – 12pm: Lecture 1: Low Carbon Economy in Iskandar Malaysia, Prof Ho Chin Siong</p> <p>Venue : School of Chemical and Energy Engineering (SKT)</p> <p>12pm: Lunch*(provided)</p> <p>Visit 1 & Lecture 2: Iskandar Regional Development Authority (IRDA) & Forest City</p> <p>1.30pm : Departure from SKT</p> <p>2.15 – 3pm: Briefing on Low-Carbon Blueprint by in Iskandar Region Development Authority (IRDA).</p> <p>3.30 – 4.30pm: Forest City tour: The Futuristic Megacity</p> <p>4.30pm : Bus rounding Edu -City and Puteri Harbour, Kota Iskandar new Townships</p> <p>5.30 -7pm: Free and Easy Dinner at Medini (Legoland) Mall</p> <p>7pm : Departure to UTM Scholars Inn</p>
15/2/2019, Fri	<p>One-night stay at a chalet at Gunung Pulai with UTM buddies</p> <p>Hiking and BBQ activities (TBA)</p>
16/2/2019, Sat	Visit to some villagers and do some cultural activities (TBA)
17/2/2019, Sun	<p>8:30am: Departure from UTM Scholars Inn</p> <p>9am – 11pm: Lecture 2: Sustainable Consumption and Production (SCP), Prof. Dr. Lee Chew Tin</p> <p>Venue : School of Chemical and Energy Engineering (SKT)</p> <p>11-12pm: Introduction of UTM Green DNA Society and Low-Carbon Real</p>

	<p>Projects in FKT 12:30pm Lunch*(provided) 2–5 pm: Lecture 3: Sustainable Renewable Energy Management, Prof. Haslenda Hashim Venue : School of Chemical and Energy Engineering (SKT) 5-7pm: Friendly Sport Match</p>
18/2/2019, Mon	<p>Visit 3: Malay Cultural Village and Johor Bahru City Tour 9am: Departure from UTM Scholars Inn 9.30am: Arrival at Malay Cultural Village 11.30am: Departure from Malay Cultural Village 12.30pm: Drop-off at Paradigm Mall or back to UTM Scholar Inn</p>
19/2/2019, Tue	<p>9am – 12pm: Lecture 4: Student Mobility and Employability in Southeast Asia, Dr. Doria Abdullah Venue: UTM new Library 12pm: Lunch *(provided) 2pm: Visit 4: Award Winning Green School- Pulai Chinese Primary School 4pm: Return to Scholar's Inn</p>
20/2/2019, Wed	<p>Visit 5: Desaru Beach and Tropical Fruit Farm 8am: Departure from Scholars Inn, UTM 9.30am: Desaru Fruit Farm followed by Desaru Beach 1pm: Lunch 3pm: Arrival at AEON, Kulai 5:30pm: Departure to UTM Scholars Inn</p>
21/2/2019, Thu	<p>9am: Preparation for Group Presentation 1:30pm: Visit 6: Tanjung Piai National Park 5pm: Return to UTM Scholars Inn</p>
22/2/2019, Fri	<p>Visit 7: HISTORICAL CITY OF MALACCA 8am: Departure to Malacca 10:30am: Arrival at Malacca Old Town Free & Easy guided by UTM local buddies 7pm: Departure back to UTM Scholars Inn 9:30pm Arrival at UTM Scholars Inn</p>
23/2/2019, Sat	<p>2pm: Preparation for Group Presentation 5pm: Return to UTM Scholars Inn</p>
24/2/2019, Sun	<p>9am – 12 pm: Team Presentation and Closing Ceremony, Seminar Room, FKT 12pm: Lunch*(provided) and Free & Easy 7.15pm: Farewell Dinner* (Provided), Gift Exchange, UTM Café 9:30pm: Back to UTM Scholar Inn</p>
25/2/2019, Mon	<p>Free and easy</p>
26/2/2019, Tue	<p>7.30am: Checkout and Departure to Singapore trip</p>

	<p>10:30am: Arrival at Marina Barrage Visitor Centre at Marina Bay, Singapore</p> <p>12pm: Free & Easy Lunch</p> <p>2pm: UTM Bus departure to Singapore hotel (Hotel Boss) for check in</p> <p>3pm: UTM Bus Return to Johor</p>
27/2/2019, Wed	<p>Fieldwork</p> <p>Venue: TBA</p>
28/2/2019, Thu	<p>Fieldwork</p>
1/3/2019, Fri	<p>AM: Fieldwork and preparation for presentation</p> <p>PM: Presentation Venue: TBA</p>
2/3/2019, Sat	<p>Free and easy</p>
3/3/2019, Sun	<p>Free and easy</p>
4/3/2019, Mon	<p>9:30 am: Meet at Level 2, Singapore City Gallery, The URA Centre, 45 Maxwell Road</p> <p>Urban Redevelopment Authority: https://www.ura.gov.sg/Corporate</p> <p>Dress code: business casual</p> <p>10.00am to 11.15am.</p> <p>10:00am: Welcome to our guest by Colin Lauw, at level 2 Gallery reception counter and proceed to Gallery tour till 10.40am.</p> <p>10.40am Proceed to Hosting Room, 2nd level for private screening of URA's corporate video show on "Making Singapore a Great City to live work and play in", followed by discussion.</p> <p>PM: Free and Easy</p> <p>7:00PM Dinner with Singapore Josuikai members</p>
5/3/2019, Tue	<p>9:40 am: Meet at SMU University administrative building lobby (at least 20 minutes' walk)</p> <p>Singapore Management University Administration Building, 81 Victoria Street (Right across Carlton Hotel Singapore)</p> <p>10:00~11:30am: in-class interaction with SMU students studying introductory Japanese</p> <p>Language Lab 1 (Basement level) right across Koufu, a school canteen</p> <p>See the link of the SMU campus map: https://www.smu.edu.sg/campus-life/visiting-smu/campus-map</p> <p>12:00pm ~ Half-day tour with SMU Japan Culture Club</p>
6/3/2019, Wed	<p>AM: Free and Easy</p> <p>1:30pm: Meet at Shangri-La Hotel Orchid lobby</p> <p>http://www.shangri-la.com/singapore/shangrila/about/map-directions/</p> <p><u>dress code: business casual</u></p> <p>~ 4:00pm Shangri-La Hotel tour and interview</p>

7/3/2019, Thu	11:20am Check out and meet at hotel lobby (accompanied by a local staff) 11:30am Departure for airport 2:05pm Departure from Singapore (SQ634) 9:40pm Arrival in Japan (Haneda) <i>Welcome back home!</i>
---------------	---



UTM/SMU

UTM

University of Technology Malaysia(マレーシア工科大学)



マレーシア工科大学は国内第二の都市、ジョホール＝バルに本校を構えるマレーシアの国立大学です。1904年に Technical Schoolとして開校して以降、国内最高水準の理工系研究型大学として数多くの人材を輩出してきました。大学名は1974年から現在のような名前になり、マレーシアにおける工学系人材の実に三分の二を輩出しています。工学系の大学として創立された大学であり、研究分野の中心は理工系ですが、現在では社会学の学部も備えており、教育学、経営学、ビジネスなどを学ぶこともできます。またクアラルンプールにあるキャンパスには日本政府や20以上の日本の大学が支援して設立したマレーシア日本国際工科院があり多くの日本人教員が教鞭を取っています。日本との留学協定校も数多いとのことです。(芝浦工業大学、関西大学、九州大学、大阪大学、東京農工大学、徳島大学 etc.)学部生は約11,000人、大学院生は約4,000人在学しており、留学生の数は5,000人を超えています。マレーシア国内の大学ランキングでは国立のマラヤ大学に続いて二位に位置しています。

大学内はとにかく大きいです。敷地内には川が流れ、釣りができる湖があり、野球やサッカーのスタジアムがありました。移動手段は車かバイク。寮で電動自転車を貸して

くれますが、従量課金制なので移動手段としては魅力的ではなかったです。私たちはバディの車がなかったらほぼ身動きができなかったと思うほどの大きさでした。また大学周辺が一番高い丘陵地には立派なモスクがそびえ立っており、週末には学生が礼拝を行っていました。

UTM の寮: Scholar's Inn

巨大な大学の敷地内を奥に入っていくと、比較的新しい 10 階建てくらいの建物が見えてきます。海外からきた留学生たちが宿泊する学生寮 Scholar's Inn です。マレーシアは広大で人口密度があまり高くないので、UTM の学生たちは全国各地からやってきます。そのため、基本的に彼らは大学内にあるマンションのような寮に住みます。大学周辺には建物らしい建物がなく、交通手段も基本的には車なので、付近の住宅に一人暮らしをするということもありません。留学生も同様で、周辺に住宅街はなく、移動も全て車なので、大学の寮に住むことがほとんどだと言います。



僕らが滞在した Scholar's Inn は大学内の建物の中でも比較的新しいもので、留学生を受け入れるには十分な設備が備わっていました。僕らも基本的には日本とあまり遜色のない生活ができました。

寮の部屋は玄関を入るとすぐに、湯沸かし器と冷蔵庫が完備されたキッチンがありました。湯沸かし器は問題なく使用できましたが、冷蔵庫に関しては出力の調整が難しかったです。気温を考えて、出力を最大に設定していたら、飲用水がシャーベットに変わり、缶でのコカコーラが凍ってパンパンになってしまいました。来年行く方は気を付けてください。キッチンを抜けると、リビングに行き着きます。テーブルと四人が対面で座れる椅子があり、ある程度の人が集まれるようになっていました。ここはしばしばパーティーの会場になっていました。また各部屋にはシャワールームとトイレが一体になった

個室があり、その奥にベッドルームが二つあって、それぞれにシングルベッドが二つありました。リビングと寝室にはエアコンがついていて、稼働させれば比較的涼しく過ごせます。

僕らの部屋はみな5階に割り振られ、連絡用通路の階段からは広大な南国のジャングルが一望できました。また一回にはレストランがあり、20種類くらいのメニューからバイキング形式で自分なりの組み合わせを考えられます。現地の美味しいご飯が非常に安価に(一食約¥150)、しかも大量に食べられるのでありがたい限りでした。あと、果物を持って行くとジュースにしてくれます。マレーシアの生ジュースを飲みたい人はぜひ試してみてくださいね！



SMU

Singapore Management University (シンガポール経営大学)

シンガポール経営大学は文化、商業の中心地ブラスバサーに位置するシンガポール最初の私立大学です。政府が出資し、2000年の初めに設立された同大学は、変化が激しいダイナミックな時代にも卓越した能力を発揮できる人材を輩出することを目的として、米ペンシルベニア大学のウォートン・スクールを模したアメリカ式教育システムを採用しています。

現在は、6つの学部とスクールから構成され、12の修士課程を提供しています。内訳は、Lee Kong Chian School of Business(李光前商学院)/School of accountancy(会計学部)/School of Economics(経済学部)/School of Social Science(社会学部)/School of Information Systems(情報システム学部)/School of Law(法学部)となっています。

SMUは、少人数制でゼミ形式での教育を特徴としています。経営大学でありながら、情報システム学部を備えており、ビジネスの舞台でエンジニアとして活躍しようとする理系学生も入学しています。毎年約9000人余りの学生を抱え、そのうちの1200人が交換留学生となっています。SMUの会計学部はブリンガムヤング大学が行なった会計研究ランキングにおける金融アーカイブ研究において、5位に位置づけられており、また、Lee Kong Chian School of Businessはテキサス大学ダラス校が行なった世界ビジネススクールランキング調査トップ100において49位に位置付けています。

また、経営者人材の開発にも注力しており、伝統的な学問的プログラムに加えて、キャリアを四つのステージに分けて経営者人材を開発し、教育していくプログラムを運営しています。スタートアップから、プロジェクトリーダー、ジェネラルマネージャー、シニアの経営幹部、企業の執行役員まで、様々な状況における経営スキルを学ぶことができます。



都心に位置する大学キャンパス

SMUのキャンパスはシンガポールの中心地、ブラスバサーに位置しています。周辺の地域と明確に区切られたキャンパスのようなものはなく、普通のオフィスや住宅に混ざって大学の建物が建っています。大学周辺には、シンガポール国立博物館、地区図書



館、世界的に有名な会社がオフィスを構えるビルなどがあり、実務、学問の両面において刺激的な街です。大学の建物それ自体はとてもおしゃれな建物で、ショッピングモールのような構造をしていました。一般的に、シンガポールにはおしゃれな外装の建物がたくさんありました。大学内には、教授が授業を行う教室と、学生が自ら自習をしたり、打ち合わせをしたりする小さな自習室が隣接して位置していて、どこの教室も勉強している学生が多かったです。また、教室外にも自習ができるようなソファがあり、SMUの学生が熱心に勉強していました。

他にもSMUには通常の授業を行う教室とは別に、自習をする専用のラボのような建物があり、そこでは学生が休息を取れるようなマットやクッションが置いてありました。どこの自習室も学生で溢れており、SMUの学生は勉強熱心だというのがとても印象に残っています。またSMUは大学の施設としてバーがあり、学生証を提示すれば安価で利用することができます。日本の大学食堂とは少し違って、街でよく見かけるようなバーが大学の建物の一角にあり、驚きました。

校舎の中にはカフェテリアや売店も充実しており、学生が過ごしやすい学校であると思いました。私たちはSMUで実際の日本語の授業に参加し、現地の学生と交流しました。日本語の授業では、SMUの学生の日本語能力に驚かされました。やはりシンガポールが多民族国家であるからか、どのクラスでも私たち日本人を温かく迎え入れてくれました。この研修に参加した学生はSMUのレベルの高い授業に感心していました。

Malaysia Diary



ついに、待ちに待った短期海外研修がスタート！初めての異文化に戸惑いながらも、現地の UTM の学生たちと交流する中で、新たな文化・新たな経験を学んだ。彼らはこの充実したマレーシアの日々で何を感じていたのだろうか。

2/13 “Arrival”

機中泊を経て、シンガポールのチャンギ国際空港に到着。皆入国審査を通過！と思いきやメンバーの一人シシが入国審査のところで違う場所へ連行されてしまいます。全然来る気配がないのでゲートの外で待っていたら、1時間ほどして来ました。これでUTMに向かうことができると思いましたが、彼のパスポートに不具合が生じて一緒に行けないので後から頑張って合流するとのこと。その後、彼を空港に残してUTMの学生と一緒にUTMにバスで向かいました。バスで走ること1~2時間シンガポールの出国審査、マレーシアの入国審査のために一回バスを降りました。出国審査、入国審査では指紋認証をさせられ、国境というものを感じました。ASEAN 在住者用ゲートではたくさんの方がゲートを通過しており、日本では見られない光景でした。その後、再びバスに乗り、1時間ほどしてやっとUTMに着きました。ここまで長かった！

到着後、マレーシアで初めての食事を寮のカフェテリアで食べました。日本食に慣れている私には辛く、これから大丈夫かなと不安になりました。その後、UTMの学生とice breakingを通して交流をしました。Ice breakingでは自己紹介を行いました。UTMの学生はとても明るく気さくな方たちで楽しく話すことができました。Ice breakingの後、彼らに大学構内を案内してもらいました。イスラムの建物で休憩所のような場所があり、信者の学生がお祈りをしたり、携帯を触ったり、本を読んだりと各々が思い思いのことをしていたのが印象的でした。また、UTMの丘の上には「HOLLYWOOD」を彷彿とさせる「#I am UTM」の文字が、完全にインスタスポットですね(笑)。インスタは世界共通だと感じました。もちろんみんなでいろんなパターンで写真をとって楽しみました。

その後は寮に戻って旅の疲れを癒しました。ところで、空港に残してきたシシですが、夜10時くらいにやっとUTMに到着しました！現地の方が乗るバスと一緒に乗ってなんとかUTMに着けたとのこと。いやあ、よかった、よかった！



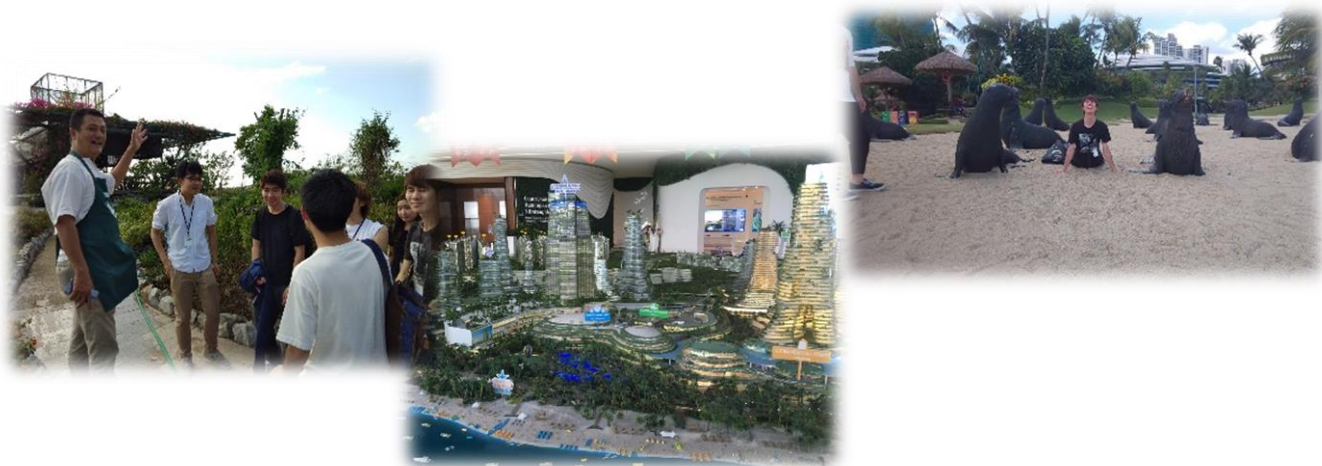
2/14 “First Lecture, Visiting IRDA, Edible Park”

この日の午前中はUTMに来てから初めての講義を受けました。講義のテーマは”Low Carbon Economy in Iskandar Malaysia”で、前半では、Low Carbon Economy

の概要、それを達成するための考え方、後半では、Iskandar Malaysia で Low Carbon Economy を達成するための具体的な政策の説明を受けました。Sustainable な社会を目指すために、経済、社会、環境の観点からアプローチしていて、この考え方が UTM で受けたすべての講義の根底にありました。お昼休みは屋外で食べたのですが、野良猫が私たちの足元をうろろう。ジョホールでは猫を見かけることが多く、みな人慣れしていました。

昼休憩を終えた後は、UTM を出発し IRDA(Iskandar Regional Development Authority)に向かい、講義を受けました。IRDA は Iskandar の持続可能な発展の達成を目標に政策を行う政府です。IRDA について説明したパネルがあったのですが、すべてマレー語(泣)で書かれており、読めなかったため、UTM 生に説明してもらいました。講義では、Iskandar の経済、社会、環境の実態について説明を受け、改善すべき問題について知ることができました。その後、Forest City に向かいました。Forest City の施設に入るとすぐのところには都市の完成模型は、とても美しく未来を感じさせるものでした。高層ビルの外壁は緑で覆われ、駐車場を地下に設置するなどさまざまな工夫がありました。また、シンガポールとジョホール湾を挟んだところにあり、立地も抜群です。欧米の有名メディアで数々紹介され、世界中から大きな注目を浴びています。Forest City のこれからに期待です！

Edible Park では植物園(?)を歩きながら、おじさんに食用の植物を食べさせられました。(おいしいものもありました) 植物だらけということもあり、蚊に刺されている人がたくさんいました(マレーシアでは毎日のように蚊に刺されました)。夕食は、レゴランドのあるモールで食べました(レゴランドには行かず)。日本にもあるケンタッキー、バーガーキングがあり、ほっとしました。



2/15 “Interacting with Local People”

この日は郊外の森林公園 Gunung Pulai に向かいました。バスで向かっていくとどんどん山の中へ。着いてからまず滝のある場所に向かいました。滝に打たれてはしゃいだり、水に浸かったり、水を掛け合ったりして水遊びを楽しみました。水遊びをした後は、現地の子どもたちと交流をしました。ヤシの実でボウリングをしたり、風船を使ったゲームをしたり、輪投げをしたりするなどのゲームをして楽しみました。ヤシの実ボウリングはふつうのボールと違って、ラグビーボールのような形なので、それてしまったり、はね

てしまったりして全然ピンに当たらなかったです(泣)。現地の子供たちは、最初緊張気味でしたが、ゲームをすることによりだんだん打ち解けていくことができました。ゲームを純粹に楽しむ子どもたちはとても楽しそうで、その笑顔に癒されました。子どもに戻りたいと思いましたね。子どもたちと遊んだ時間はわずかでしたが、かけがえのない時間でした。

子どもたちとお別れをした後、夕食は UTM 生とバーベキューをしました。肉、魚、イカなどを焼き、また、マレーシア料理もふるまってもらい、おいしくいただきました。自然豊かな場所でやるバーベキューは解放感があり最高でした！夕食後はみんなで ice breaking として、改めて自己紹介をしました。その後、UTM 生考案のゲームをしました。そのゲームはなぞなぞのようなもので、頭の柔らかさが問われるものでした。全然答えがわからず自分たちの頭のかたさを思い知らされました。そのような私たちの様子を見た UTM 生がとても楽しそうだったのが印象に残っています(悔しい！) これに味をしめた UTM 生はこの後の数日間なぞなぞゲームを私たちに出题してきました(笑)。

その日は UTM に帰らず、バーベキューをやった所にあるシャレー(2~4 人部屋)に UTM のバディーと一緒に泊まりました。イスラムの方は朝早くに起きてお祈りをしていました。文化の違いを改めて感じました。



2/16 “Layang-Layang Village”

前日からジョホールの郊外にある村のキャビンに宿泊していた私たちは朝から Layang-Layang Village という村を訪問し、農園を見学しました。マレーシアではパーム油の生産が盛んであるが、この農園でもパーム油の生産を行っていました。パーム油を生産する際に出るごみを再利用して、肥料にするコンポステイング事業の説明を Lee 先生から受けました。最終的に作られる肥料はとても臭かったです。

その農園では実際にパーム油を収穫させていただく体験もできました。日本では当然パーム油の木など見ることもできず、マレーシアで人生で初めてパーム油の木を見ることができたこと自体貴重であるのにも関わらず、その上、そのパーム油を収穫する機会を持って、とても興奮しました。これは、この先の人生でもう二度と体験できな

いであろうことなので体験出来て良かったです。

その日のランチは Layang-Layang Village の結婚式場で食べました。マレーシアの田舎の村の結婚式はとても開放的で、新郎新婦に全く縁のない私たちが招待されるほど、自由な雰囲気でもとても活気がありました。外国の結婚式に参加する経験はあまりできないと思うので、貴重なものとなりました。



2/17 “Lecture and Lecture and Lecture”

朝から講義をたくさん受けました。

朝最初の授業はこのプログラム中に大変お世話になった Lee 先生による授業でした。授業では“Sustainable Consumption and Production”というタイトルで、Lee 先生が実際に Layang-Layang Village で行っているコンポスティング事業に関する話をお話してくださいました。

そのあとは、UTM の中で“Green DNA Society and Low-Carbon Real Projects”というプロジェクトに参加し、コンポスティング事業を行っている学生から、活動内容や活動による成果などのお話を聞きました。私たちとほぼ同年代の学生が実際に社会的プロジェクトを行い、結果を分析して、私たちに対して研究報告を行う姿にとっても刺激を受けました。

午後は三時間にわたる講義を受けました。Haslenda 先生による“Sustainable Renewable Energy Management”の授業を受け、近年のエネルギー政策についてのお話を聞くことができました。教室での講義のあとは、実際に UTM で行われている持続可能なエネルギー開発を体現しているソーラーパネルの施設を訪問しました。この大学は持続可能なエネルギー開発にとっても積極的な取り組みを行っているのだと感じました。

夕方は、激しいスコールが降ったため、もともと予定されていたスポーツレクは中止となり、その代わりに私たちの部屋にバディと日本人が全員集まりトランプゲームをみんなでした。部屋はぎゅうぎゅうで熱気に満ちており、とても熱かったです。



2/18 “Malaysian Cultural Village”

この日はとても忙しい一日であった。朝、私たちはバスでジョホールにある“Malaysian Cultural Village”というマレーシアの伝統文化を扱った施設を訪問しました。そこで私たちはマレーシアの伝統を実際に体験することができました。

まずは、マレーシアの木々や花について説明を受けました。その後、ビー玉を使ったマレーシアの伝統の遊びを体験したり、現地の伝統の民族衣装を着ることができました。さらには、昔の狩猟の方法は吹き矢が中心であったようで、私たちも吹き矢を吹くという貴重な体験をしました。マレーシアの伝統舞踊も鑑賞し、実際に私たちも参加させていただく機会もありました。マレーシアの食文化について、現地の紅茶は日本のそれとは異なり、とても甘いのが、その紅茶の作り方を学んだり、ロティ・チャナイと呼ばれる伝統料理を作る体験ができました。また、現地の草木染を体験し、個人個人が思い思いの作品を作っており、それぞれの個性が草木染に現れていたのがとても印象的でした。

午後は、パラダイムモールというジョホール最大級のショッピングモールにバディたちと行きました。そこはアイススケートリンクがあり、常夏の国マレーシアでは考えられず、とても驚きました。私はスケートをするのが小学生以来でとても不安であったが、思いのほか上手に滑ることができて、とても楽しかったです。

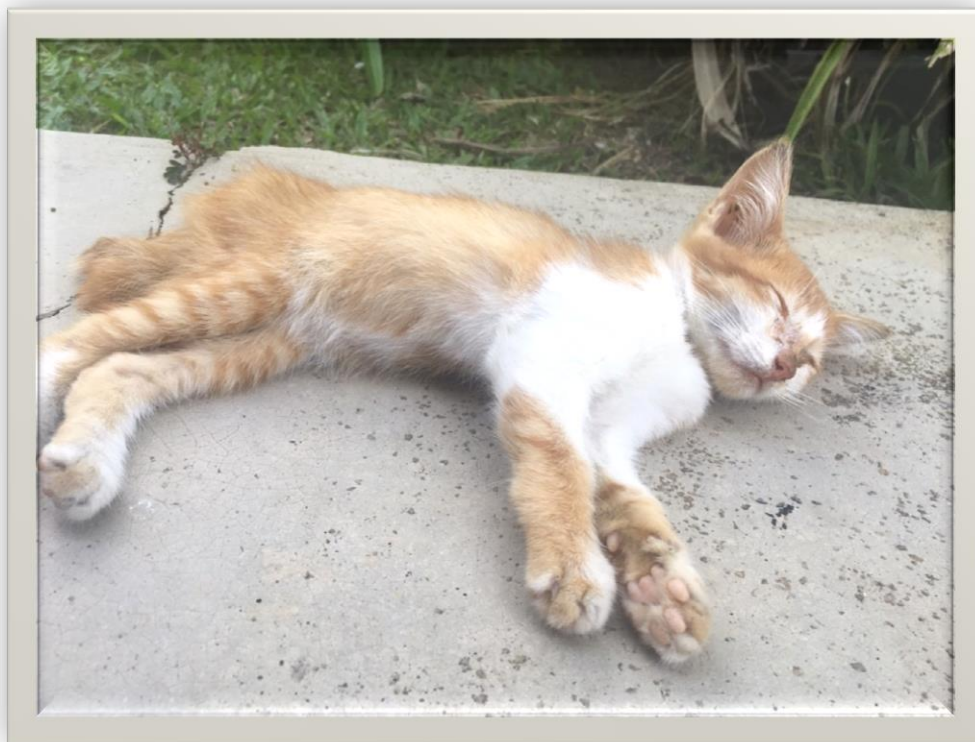


2/19 “Lecture, Visiting Chinese Primary School, Night Market”

朝から講義を受けました。Doria 先生による“Student Mobility and Employability in Southeast Asia”を受け、私にとっては数多く受けた講義の中で一番面白いものでした。授業内容として、東南アジアの学生の就職意識や他国への積極的な訪問に関するもので、私たちにもとてもためになる内容でした。

午後は現地の中国系マレー人の小学生が通う学校を訪問しました。その学校でもコンポスティング事業を行っており、とても驚きました。コンポスティング事業の説明を行っている小学生たちの姿はとてもかわいかったです。同時に、こんなにも小さいうちから農業について考えたり、英語や中国語をしっかりと話せる彼らはとてもすごいと思いました。

夕方から夜にかけては、UTM 中にあるナイトマーケットで夜ご飯を食べました。屋台のご飯はとても安くて美味しかったです。マレーシアなど東南アジアではメジャーな屋台を訪れることができ嬉しかったです。



2/20 Desaru Fruit Farm/Desaru Beach

この日は朝から Desaru Fruit Farm へ。スターフルーツやパイナップル、カカオなど、日本で食す機会はあるけれども見ることはない熱帯の果実が実際に実っている様子を楽しみました。ドラゴンフルーツの花など、貴重だと言われて色々な植物の写真を撮ったせいか、後で見直してどれがなんなのかわからない状態となっていました。ヤギやウサギや鶏がいる小さな動物園で可愛い動物たちに癒された後、バスへ戻ろうとすると通り道に毒蛇が現れ、車で移動しました。非常に残念ながら、ドリアンは時期が違うので見られないそうです。無念。

Fruit Farm のお土産のフルーツを持って、次は Desaru Beach。青のような緑のような、不思議な色をしている透き通った海と、サラサラとした白い砂浜のコントラストは、これぞ南国！ という美しさでした。早速日陰で果物を実食。野菜みたいに苦味があったり全然甘くなかったりとなんとも言えないお味のものが多かったのですが、これが天然物、と頑張っって飲み込みました。

ビーチの後にはちょっと遅めのお昼ご飯を食べにイオンモールを訪れました。そこには日本で有名な某牛丼チェーンが……。マレーシアに来て一週間ちょっと、そろそろ日本食が恋しくなる時期だったのです。久々のジャポニカ米と醤油の味に感動した人も多数いました。



2/22 Prepare for Presentation

午前中はよいよグループプレゼンテーションの準備をはじめました。所々でバディにアドバイスをもらいながら、集大成となる発表へ向けて、班ごとに真剣に取り組めます。マレーシアでの日々も残り少なくなっていました、最後まで頑張ります！

午後は国立公園へ。長く続くマングローブ林に、泥の上を走る mudskipper や、尻尾がとても長いサルなどの動物がいる自然を満喫しました。この公園はマレー半島の端の方にあるので、インドネシアが見えると聞いていたのですが、どの島がそうなのかいまいちよくわかりませんでした。



2/23 Prepare for presentation & Night Market

この日は丸一日プレゼン準備の日でした。基本的にプレゼンを行うグループごとに行動を行いました。午前中はみな図書館で発表用のパワーポイントづくりや発表の練習を行い、午後は自由行動。各グループの進捗具合によって街に繰り出して観光やグルメを堪能したグループもあれば、夜遅くまでプレゼン準備を行ったグループもありました。なんと中には満足できるプレゼンがなかなか出来上がらず、宿泊所のロビーで朝の四時まで準備を行うグループも。

バディが優秀すぎたこともあり、お昼には準備がほぼ終わっていた筆者のグループは、夕方頃に旧正月で賑わう中華系ナイトマーケットを訪れました。夕食に本格的な中華料理を堪能したあとは Danga Beach という海沿いの遊園地に。マレーシア特有の食べ歩きデザートを買ったり、落ちそうになる程揺れる丸い乗り物に乗って絶叫したり(笑) 充実した時間を過ごしました。

過ごし方はグループごとに異なりましたが、勉強や観光などを通してバディやグループメンバーとの絆が特に深まった1日だったと思います。



2/24 Presentation Day, Farewell Dinner

待ちに待った(?)プレゼン当日。この日は朝から会議室のような部屋で UTM の教授たちや秋庭先生を迎え、プレゼンを行いました。グループごとに 20 分ほどの発表をし、各発表後には 5 分ほどの質疑応答を行うという形式で進められました。最後にはプレゼンのグループ順位が教授たちにより発表され、バディのみんなからマレーシアのお菓子のパック(グループメンバーで分けてもトランクに詰めるのが大変なほどの特大サイズ!)をいただきました。最後には UTM のサマースクール修了式で一人ひとり修了書が手渡され、その後ビュッフェスタイルの昼食とお菓子を楽しみました。

夜には Farewell Dinner が行われ、ビュッフェ方式のマレーシア料理をいただきました。食事をしながらプレゼント交換を行ったり、カラオケを歌ったり、バディと談笑したり。終盤には一橋の学生が、バディへの感謝の気持ちを伝えるべく、恋するフォーチュンクッキーのダンスを披露しました。ほとんどの人がダンス初心者で当初は不安だらけでしたが、本番にはなんとか形になり喜んでもらえました。ほんとに良かった...!そして、リーダーの篠田さんがマレー語でサプライズの感謝の言葉を述べると、UTM の学生も教員の方々も大感激でした!



2/25 FREE and EASY

2/25 のスケジュールは free and easy、直訳すると“自由と簡単”。その言葉通りこの日はみんなそれぞれのバディと好きな場所に行き、好きなことをして過ごしました。私は朝から夕方までイオンモールの中にあるボルダリング場でひたすらボルダリングをエンジョイしていました。初めてのボルダリングはとても難しかったですがすごく楽しく、ボルダリングを教えてくれたマレーシア人の人ともインスタグラムで友達になる程仲良くなることができました。このようにして私はスポーツを通してまた新たな異文化交流をすることができました。その他にも、現地のモールでショッピングしたりマレーシア料理を食べに行ったりした人もいたようです。

その日の夜は各自部屋に戻り荷造りする人もいれば、翌日に備えて早く寝る人もいました。ちなみに私の部屋ではマレーシア最終日を記念して徹夜の夜会が開催され、巨大なゼリーを作ったり大富豪をしたりしていました。せっかくマレーシアで廃棄食品の再利用についても勉強したにもかかわらず、巨大ゼリーという廃棄物を作ってしまったことは私のマレーシア・シンガポール研修史上最大の汚点となりました。



Singapore Diary



マレーシアでの濃密な時間もあったという間に過ぎ、一行はついにシンガポールへ。
シンガポールで彼らはどんな文化に触れ、どんな人々と触れ合ったのか。そして、彼らはそこから何を学んだのか。この研修のラストスパート、シンガポールでの最後の1週間を振り返ろう。

2/26 Departure to Singapore and Go to Marina Bay

ついにマレーシアでの研修が終わりシンガポールでの研修が始まりました。初日は何人かのUTMのバディと一緒にシンガポールまで来てくれて、彼らとともにシンガポールを観光しました。有名なマーライオンやマリーナベイサンズを見てバディと一緒にランチを食べ、その後 Hotel Boss にチェックインしました。バディとはそこで残念ながらお別れし、私を含め研修メンバー各々バディに感謝の言葉を述べたりハグしたりなど涙ぐましいお別れになりました。バディと別れた後は班ごとに自由行動となり、私の班はアラブストリートを散策しました。マレーシアも多民族国家で様々な民族料理がありましたが、シンガポールではさらに多くの種類の民族料理があり、特にアラブストリートには様々な国のレストランがありました。ちなみに私の班はライトアップされたモスクを眺めながらメキシコ料理を堪能しました。他の班はホーカーセンターという大衆食堂でお手軽にすませるところもあればコンビニで夕食を買う班もあったようです。

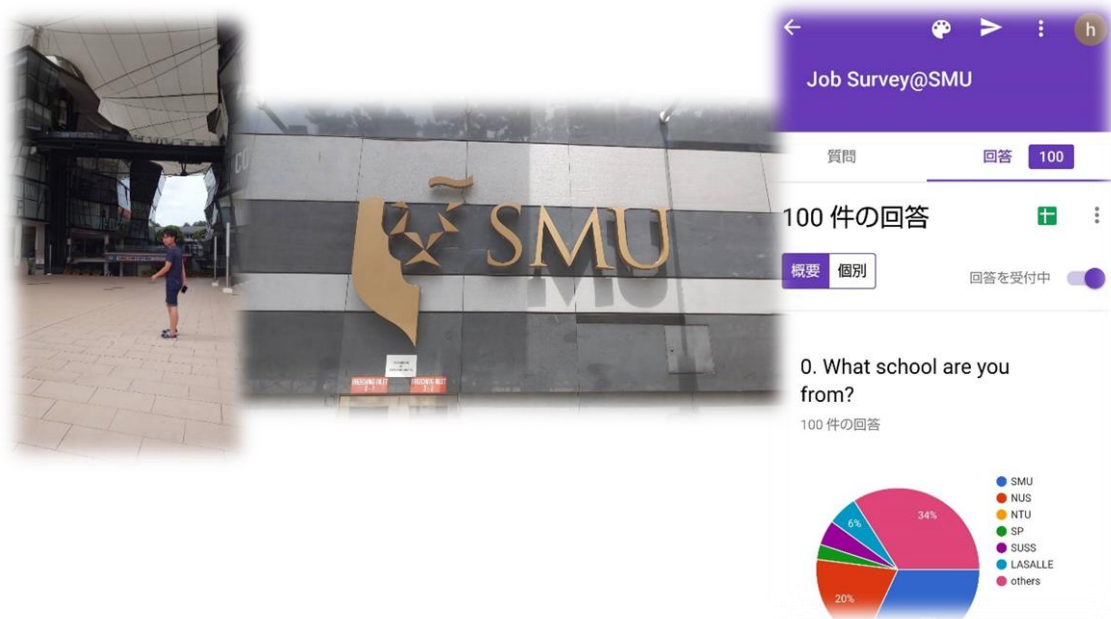


2/27 Field work 1st day

シンガポール2日目は、SMUでのミーティングから始まりました。ありがたいことに、交換留学生として4月から一橋に来る予定のSMUの学生3名も参加してくださり、フィールドワークの計画についてアドバイスを頂くことができました。各グループで事前にテーマと調査方法を考えていましたが、やはり現地の事情をよく知っている人に相談することで、より円滑に進めることができましたと思います。例えば、未だアポイントメントを取ることができていなかった企業にすぐに電話をかけてくださったり、調査の一つとして実施したGoogle Formのアンケート回収について現地の学生に協力を仰いでくださったり、とてもスマートに対応していただきました。

ミーティングを午前中で終え、準備ができたグループから順にフィールドワークへ出発しました。私たちのグループは食の安全に関するテーマを扱っており、国民の意識と企業側の取り組みという二つの観点からフィールドワークを行う計画を立てました。前者は、スーパーマーケットを訪問し、植物工場で生産された野菜の知名度と消費者の反応を調べることで、後者は、植物工場で実際に野菜を生産しているシンガポールのベンチャー企業を訪問し、ビジネスとしてどのように機能しているのかを調べることを目的とし、それぞれ1日目と2日目に行うことにしました。

従ってこの日は計画通り午後から、グループでローカルなスーパーへ出かけ、現地の人へインタビューを開始しました。ミーティングの時点では、調査の目的や質問、調査方法を十分に検討したつもりでした。しかしいざインタビューをしてみると、予想していたような結果が得られなかったり、目的を達成するための手段が十分でなかったり悪戦苦闘が続きました。結局、調査の途中で再びミーティングを行って検討し直すなど、フィールドワークの難しさを感じる1日目となりました。



2/28 Field work / 2nd day

この日は一日中フィールドワークの時間として設定されており、調査やプレゼン準備など、各グループで自由に時間を使って過ごしました。私たちは計画通り、植物工場を持っているベンチャー企業を訪問しました。その企業は北部に位置しており、滞在していたホテルからは1時間半ほどの距離だったのですが、シンガポールは日本と同じかそれ以上に交通の便がよく、MRT やバスを使って出かけることはそれほど難しくありませんでした。ただ、事前に訪問を検討していたいずれの企業ともアポイントメントを取ることができておらず、訪問自体を一か八かで行って、結局断られてしまい、オフィスの外観を見るにとどまりました。事前の段取りで結果が決まってしまうことを痛感しました。

テーマに即して、様々な場所を訪れてインタビューを行ったグループもあります。例えば、エスニシティをテーマに調査したグループは、マレー系やインド系の人にインタビューするために、アラブストリートやリトルインディアなどを訪れ、バス停などで待ち時間を過ごす人に話しかけるなど、工夫してフィールドワークを行ったそうです。多民族国家であるシンガポールならではのフィールドワークだなあと感じました。



3/1 Field Work / Presentation day

2日間のフィールドワークを終え、午後からSMUの教室でプレゼンテーションが行われました。私たち15名と秋庭先生、田口先生に加え、SMUの日本語初級クラスでTAの方も参加してくださりました。数日前にマレーシアでのプレゼンを終えたばかりで皆慣れた様子の中、また、全員が日本語を話せるという状況の中、英語でのプレゼンが始まりました。

各グループの発表は20分のプレゼンと10分間の質疑応答で構成されており、計2時間半という長時間のプログラムでしたが、各グループの質疑応答では議論が白熱しました。特に、ゲストで来てくれたシンガポール経営大学の学生 Simon さんは、現地の方ならではの視点をくださり、たくさん学びを得ることができました。

一方で、正直、2日間のフィールドワークでは明確な結論を出すことができず、プレゼンを終えた時はどこか心の中がもやもやしていました。ですが、プレゼン後に田口先生が講評で、今回のフィールドワークの目的の一つは興味を持つことだとおっしゃっていて、経験を通じて物事に興味を持つという一歩は踏み出すことは出来たのかなあと思うことができました。また、慣れない環境の中でも、限られた時間の中でグループで成果を出すという経験もすることができ、大変ではありましたがとても楽しく、達成感を得ることもできました。



3/2&3/3 Free & Easy

3日間にわたるフィールドワーク・プレゼンテーションを終え、シンガポールに来て初の束の間の休息。研修のメンバーは各々シンガポール観光を楽しんだようです。ここでは、僕らがこの二日間に行った中で一番印象に残っている、セントーサ島でのアクティビティを紹介します。

セントーサ島は、シンガポールの観光地で、有名なところと言えばUSS(ユニバーサル・スタジオ・シンガポール)があります。今回僕らはUSSに遊びに行っていないので、来年以降の参加者で興味がある人はぜひ行くといいと思います！で、セントーサ島で僕らが何をしたかというと、「メガ・ジップ」、「メガ・ジャンプ」、「メガ・クライム」といった「メガ・アドベンチャー」です。(詳細が気になる人はググって！)こうしたアドベンチャーだけで充分半日楽しめました。僕は、日本ではあまりこういうアクティビティをしない方なんですが、そんな僕でも結構楽しめたので、超おすすめです。そういうのが苦手な人でも、セントーサ島にはきれいなビーチや水族館などもあるので十分楽しめると思います。

夕食は、ホテルの近くのレストランで食べました。確か、イスラム系の人々が集まっている場所だった。ので、そこら辺のエスニック料理だったと思います。いずれにせよ、シンガポールのFree & Easyを結構楽しめたのかなと思っています。



3/4 Visit to City Gallery / Josui Party

3月末にリノベーションオープン予定のシティーギャラリーに訪問しました。このギャラリーはURA(Urban Redevelopment Authority)という都市再開発庁に管理されており、都市開発の成果や歴史、どのように都市開発計画を立てているかを紹介しています。シティーギャラリーの見学の後は、URAで働く方に質問する時間も設けていただきました。

シンガポールの町並みは綺麗に整っていますが、それはURAが緻密な計画を立て、全てを管理した上で開発したからであることが分かります。URAの方は、シンガポールは国土面積が小さいため無駄なことに使えるスペースがない、失敗が許されない、ということを強調していました。シンガポール政府の各部門の担当者は常に5年先の将来を予測し、何に国土を使うべきかを考えています。例えば、20代前半の人口が多い時には、今後各家庭が子供を産むので幼稚園が必要になることが予想されます。人口が増えればオフィスや商業施設、居住スペースが必要になりますが、リラックスした生活を送るためには緑のある公園も必要です。このように、政府は人口動態や緑地とのバランスを考えながら計画を立てているのです。計画を発表された後は施設を建設する企業を募集し、競争入札で担当する企業を決定します。シンガポールでは各企業が土地を買って勝手に建設を進めることはなく、全て政府が決めた計画に則って建設されます。

夜からは、如水会シンガポール支部の方との食事会がありました。一橋大学を卒業後、各企業で活躍し、現在シンガポールに住む方との食事会はとても刺激的でした。シンガポールでの生活や、海外でのキャリアについてなど、多くのことを聞くことができました。



3/5 Japanese class at SMU / Tour by Japan Culture Club

午前中は SMU の日本語初級クラスに参加しました。SMU の学生は 5 人程度のグループになって座っており、そこに一橋生が 2 人ずつ加わる形になりました。その日のトピックは交通だったのですが、移動手段を説明する文法を練習した後は、日本に行ったら何をしたら良いか、シンガポールではどこに行くべきか、などについて話しました。シンガポールに来てからはローカルな学生と話す機会が少なかったなので、シンガポールでのおすすめを聞く良い機会でした。また、日本人として当たり前話している日本語を第二外国語として習っているシンガポール人を見ることで、日本語の何が難しいのかを知ることができました。「てにをは」や読み方が複数ある漢字など、日本語は難しいと言われましたが、個人的には日本語を習い始めた 7 週目でひらがなとカタカナ、さらには簡単な漢字までマスターしていることに驚きました。

午後は Japan Culture Club の学生が企画したツアーに連れて行ってもらいました。Japan Culture Club は SMU 内で日本に興味のある学生が集まり、日本文化をプロモーションしている部活動の 1 種です。SMU のキャンパスツアーの後、チャイナタウンに行き、最後にマリーナベイサンズの近くで写真を撮りました。SMU は 1997 年に創設されたばかりということもあり、キャンパスはととても綺麗でした。研究室に仮眠用のソファや自転車、卓球台があったことが印象的です。



3/6 Shangri-La Hotel tour and interview

研修最終日。午後からシャングリラホテルに集合し、マネジャーとして働く日本人出倉さんとシンガポール人のジャナさんにお話を伺いました。シャングリラホテルはファミリー層に人気な高級ホテルであるだけでなく、アメリカのトランプ大統領や日本の安倍総理も訪れた、公的な場面に利用されるホテルでもあります。マリーナベイサンズのような都心に位置するホテルではなく、日本でいう銀座のような立ち位置のオーチャード通りから少し坂を登った閑静な場所に位置していることが、シャングリラホテルをそのようなホテルにした理由の一つでしょう。シャングリラホテルにはガーデンウイング、バレーウイング、タワーウイングという3つの棟があり、それぞれターゲットとなる客層が異なります。今回の訪問ではそれぞれの棟について紹介していただきました。ガーデンウイングはバルコニー付きで開放感があるので、リゾートの雰囲気を楽しみたいファミリー層向けとされています。バレーウイングは、大統領も訪れる最も高級な棟です。大統領など特別なセキュリティが必要なVIPが来るときには、バレーウイングを丸ごと貸切にするそうです。バレーウイングは他の棟とは完全に隔離されており、チェックインからチェックアウトまで全て棟内で行うことが可能です。さらに、この棟の部屋だけにはバトラーサービスが付いており、部屋から出なくてもほとんどの用事を済ませることができます。タワーウイングは、小さい子供がいるファミリー層向けの棟でした。ファミリールームに宿泊すると1歳から3歳までの子供を預けられるキッズクラブを利用することができ、両親だけで観光を楽しむことができます。

部屋の案内の後には会議室のように使える客室で質疑応答の時間を設けていただきました。シャングリラホテルに関する質問だけでなく、出倉さんのキャリアについての質問にも答えていただき、海外で働くために必要なスキル、キャリア形成の方法などを教えていただきました。

このシャングリラホテルの訪問が本研修の最後のアクティビティとなりました。そして、翌日、ホテルをチェックアウトして、たくさんの思い出を胸に無事帰路に着きました。



Concluding Words

～編集後記～

篠田 由理 / Yuri Shinoda

「やりきった」という思いがとても強い研修でした。研修リーダーとして自分なりに振る舞おうとしたリーダー像や、これまでの国際プログラムで達成し得なかった反省に基づくプログラムへの関わり方など、目標をもって挑みました。ポジションから得られる機会にも、また研修メンバーにも恵まれ、様々な経験ができ、目標に対しても高い満足度が得られました。プログラムに関わる全ての方へ、この場を借りて深く御礼申し上げます。

余 嶺析 / Linxi Yu

とても充実した三週間の研修でした!!! ジョホールバルのいろんな観光名所をまわり、一橋ではなかなか聞けない化学や環境化学の講義に参加し、UTMとSMUのバディの学生と十分交流することができました。私は今回のプログラムを通して、東南アジアという地域がもっと好きになり、将来、シンガポールの大学院に進学し、このマルチカルチャーな社会で働きたいという人生の目標を立てました。最後に、このプログラムの企画側の先生や同行してくれたバディの学生達にお礼申し上げます。

森本 諒 / Ryo Morimoto

マレーシアとシンガポールでの研修は非常に有意義なものでした。特に、UTMとSMU 学生と交流することが出来たこと、シンガポールで現地で働く日本の方のお話を聞いたことで、自分の視野が少し広がったような気がしました。そして、このような素晴らしいプログラムを企画して下さいました先生方をはじめとした全ての方々に御礼申し上げます。

志賀 俊希 / Toshiki Shiga

今、この研修報告書の編集を行っています。編集を行いながら感じるのは、このシンガポール・マレーシア研修が短期間の研修ながらいかに充実した研修であったかということです。短期間ながら、多くの経験を得て、心身ともに成長できたと感じています。とはいえ、この濃密な研修もひとりでは成り立つものではなく、そこには多くの関係者の方の協力があってこそこの研修だと思えます。秋庭先生・田口先生をはじめ、現地の学生・先生にも大変お世話になりました。本当にありがとうございました!!

全学プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部3-4年生 大学院生	一橋大学海外派遣留学制度（交換留学制度）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学協定校への交換留学（留学期間1年以内） ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 募集人数160人程度 ● 単位互換認定可
学部3-4年生	グローバルリーダー育成海外留学制度	大学基金 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ハーバード大学 ● 英国・オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、LSE ● 派遣留学期間1年以内 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 募集人数4人程度 ● 単位互換認定可
学部2-4年生	一橋大学サマースクール等留学制度	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ペンシルヴァニア大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学（ロサンゼルス校/アーヴァイン校/デーヴィス校/バークレー校） ● イタリア・ボッコニー大学 ● 英国・LSE、ロンドン大学アジア・アフリカ研究院、グラスゴー大学 ● オーストリア・ウィーン経済大学 ● スペイン・ESADEビジネススクール ● デンマーク・コペンハーゲン経済大学 ● フランス・パリ政治学院、HEC経営大学院 ● 韓国・ソウル大学 ● シンガポール・シンガポール経営大学 ● 中国・北京大学、中国人民大学 ● 香港・香港大学 ● オーストラリア・クィーンズランド大学 ● 留学期間2週間～2ヶ月程度 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 単位互換認定可
学部生	短期海外研修（夏期・香港中文大学）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国・香港中文大学 ● 留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定、大学院生は単位認定不可 ● ビジネス体験1週間+語学研修3週間 ● TOEFL 500 (ITP)以上が望ましい
	短期海外研修（夏期・モナシュ大学・グローバル・プロフェッショナル・プログラム）		<ul style="list-style-type: none"> ● オーストラリア・モナシュ大学 ● 留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定 ● TOEFL71 (iBT), IELTS5.5程度を有すること ● TOEFL530 (ITP), TOEIC700も可能
	短期海外研修（春期・スペイン企業派遣）		<ul style="list-style-type: none"> ● スペイン・Berge社 ● 留学期間5週間程度（春季授業休業期間中） ● 7単位認定 ● TOEFL79 (iBT), 550 (PBT), TOEIC730, IELTS6.5程度（スペイン語能力（DELE中級以上）保持者は優遇）
	短期海外研修（春期・シンガポール経営大学・マレーシア工科大学）		<ul style="list-style-type: none"> ● シンガポール・シンガポール経営大学/マレーシア・マレーシア工科大学 ● 留学期間3週間程度（春季授業休業期間中） ● 4単位認定
学部生	海外語学研修（英語）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・スタンフォード大学、ペンシルヴァニア大学、ボストン大学、カリフォルニア大学（デーヴィス校/アーヴァイン校）、テキサス大学オースティン校 ● 英国・グラスゴー大学、エセックス大学、サセックス大学 ● オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学、シドニー大学、クィーンズランド大学、モナシュ大学 ● 留学期間4週間または5週間程度（夏季又は春季授業休業期間中） ● 5-7単位認定（派遣先大学により異なる）※2018年度の場合 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり
	ドイツ語短期海外語学研修		<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ・アーヘン語学アカデミー ● 留学期間4週間以内（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定 ● 大学院生も参加可能だが、単位認定不可
	フランス語短期海外語学研修		<ul style="list-style-type: none"> ● フランス・サン＝ティエンヌ大学附属の語学・文明国際センター または グルノーブル大学附属の大学フランス語教育センター ● 留学期間4週間程度（春季授業休業期間中） ● 6単位認定

経済学部・法学部・社会学部グローバル・リーダーズ・プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	経済学部短期海外調査（アジア新興国）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は中国を予定 ● 留学期間10日間程度（夏季授業休業期間中） ● 運動する基礎ゼミナールとセットで履修し8単位認定（春・夏学期基礎ゼミナール2単位、秋・冬学期基礎ゼミナール2単位、短期海外調査4単位）
	経済学部短期海外調査（EU圏）		<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はフランス、ベルギーを予定 ● 留学期間11～12日間程度（春季授業休業期間中） ● 運動する基礎ゼミナールとセットで履修し8単位認定（春・夏学期基礎ゼミナール2単位、秋・冬学期基礎ゼミナール2単位、短期海外調査4単位）
学部3-4年生 大学院生	法学部GLP国際セミナー（ベルギー）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はソウル大学・ルーヴァンカトリック大学を予定 ● 留学期間2週間程度（夏季授業休業期間中） ● 2単位認定 ● 全学部を対象とする
学部3-4年生	法学部GLP国際セミナー（韓国/英国/香港・台湾）		<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は韓国、英国、香港・台湾の3つのプログラムを予定 ● 留学期間は3日間～4日間程度 ● 2単位認定 ● 全学部を対象とする
社会学部 2年生	社会学部GLP海外短期調査	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 留学先はフィリピン、マレーシアを予定 ● 留学期間は7日間程度（夏季集中講義期間中） ● 4単位認定 ● 上書き履修不可、反復履修不可

日本学生支援機構 (JASSO)

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生 大学院生	官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国籍を有する者又は日本永住者 ●留学終了後、日本の在籍大学で学業を継続又は学位を取得する学生 ●月額滞在費に加え、授業料及び留学準備金を支援 ●家計基準あり
大学院生	海外留学支援制度（大学院学位取得型）	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●外国の大学院での修士又は博士の学位を取得する者 ●支援期間は修士2年以内、博士課程は原則3年以内 ●月額滞在費に加え、別途授業料を支援 ●その他、学業成績要件、語学要件、年齢制限等あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（海外）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●留学年度の前年度に、国内の大学等を卒業（修了）見込みであり、進学（入学もしくは編入の者）をする者 ●申込手続き完了時において、国内の大学等を卒業（修了）後3年以内の者 ●貸与月額（選択制） 大学：2万円～12万円の範囲で1万円単位区切り 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（短期留学）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の大学に在籍中に、海外の大学・大学院・短期大学に3ヶ月以上1年以内の短期留学をする者 ●貸与月額（選択制） 大学：2万円～12万円の範囲で1万円単位区切り 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり

※日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットにも、奨学金情報が網羅されています。日本学生支援機構 海外留学のための奨学金http://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_a/scholarship/index.html

一橋大学基金海外留学支援奨学金等

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	一橋大学海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●如水会・一般社団法人明治産業人材育成支援会の寄付による ●一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生（学部生のみ）全員への奨学金支援 ●留学準備金及び滞在費の支援
大学院生	一橋大学基金大学院生海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学金支援期間1年以内 ●募集人数4人程度 ●月額滞在費に加え、別途研究活動費を支援 ●留学中は休学することも可能
学部生	榊原忠幸基金海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●故榊原忠幸氏の御令室の寄付による ●学業優秀で、かつ経済的支援が必要な者 ●海外語学研修(英語)の派遣先大学の参加費用・滞在費等の支援 ●支援人数年間10人程度
学部生	堀海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●堀誠氏の寄付による ●愛知県内の高等学校を卒業した者で、通年（1年間）に渡り交換留学を行う者 ●留学に必要な経費の支援 ●支援人数年間5人程度

その他の民間財団等の海外留学奨学金

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/scholarship/index.php>

民間財団等が募集を行う海外留学のための奨学金があります。奨学金によっては、学内選考が必要な場合がありますが、直接応募できるものが多数です。民間財団等の奨学金のうち、大学に公募情報が届いたものについてはこのページおよび西キャンパス本館1階教務課教務第五係前の掲示板にも掲載しています。

関係URL等

プログラム	URL
一橋大学海外派遣・グローバルリーダー育成留学制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/haken/index.html
一橋大学基金大学院生海外留学奨学金制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/grad/index.html
一橋大学サマースクール等留学制度	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
海外語学研修（英語）	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/FESTA/index.html
ドイツ語短期海外語学研修	https://sites.google.com/site/gogakukenshu/
短期海外研修（スペイン、香港、シンガポール、モナシュ）	http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/index.html
経済学部 短期海外調査	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/?page_id=7
商学部 渋沢スカラシップ	http://ssp.cm.hit-u.ac.jp/
経済学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/
法学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.law.hit-u.ac.jp/faculty/glp
社会学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.soc.hit-u.ac.jp/glp/ja/index.html
日本学生支援機構等の奨学金について	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/jasso/index.html

お問い合わせ先

国際教育交流センター留学生・海外留学相談室 URL: <http://international.hit-u.ac.jp/jp/cgee/advising/index.html>

学務部教務課教務第五係 TEL: 042-580-8764 / E-mail: edu-gs.g@dm.hit-u.ac.jp

教務課グローバルスキルズチーム（海外語学研修（英語）及び一橋大学サマースクール等留学制度）

TEL: 042-580-8175 / E-mail: g-skills.g@dm.hit-u.ac.jp

※上記のプログラムは、2019年3月時点の予定であり、今後予告なく変更・追加等が生じる場合があります。